

1 主題名 相互理解とは B(9) 相互理解、寛容

2 ねらいと教材

- (1) ねらい 考え方や立場の異なる者どうしが理解し合うことについて考えさせ、相互理解に努め、他者に対して寛容な気持ちで接しようとする心情を育てる。
- (2) 教材名 「桃太郎」の鬼退治 (光村図書 「中学道徳 きみがいちばんひかるとき 中学校2年」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、中学校学習指導要領の中学校の内容項目Bの「主として人との関わりに関すること」の(9)「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろな見方や考え方があることを理解し、寛容な心をもって謙虚にほかに学び、自らを高めていくこと。」を深めることをねらいとしたものである。中学校2年生になると、ものの見方や考え方が確立するとともに、自分の考え方や意見に固執する傾向がある。また、自分と他者の考えや意見の違いを恐れたり、考え方の違いから友人関係に摩擦が生じたりする。一方で、安易に他の意見に同調し、現実から逃避したり、自分さえよければよいという考えをもったりする時期でもある。そのため、考え方や立場の異なる者どうしが理解し合うことについて考えることで、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相互理解に努め、他者に対して寛容な気持ちで接しようとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態と教師の願い (調査日 令和4年9月20日 調査人数29人)

考えが違って、だれかと対立してしまったことはあるか。またどのようなことか。	
ある(23人)	ない(6人)
<ul style="list-style-type: none"> ・学活の話し合い 18人 ・部活の練習方法について 3人 ・親との進路について 2人 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を尊重する 4人 ・しっかり話し合う 2人
そのようなときどうしたか	
<ul style="list-style-type: none"> ・相手の考えをよく理解した ・しっかり話し合った ・相手の立場で考えた ・解決しなかった 	

アンケートの結果から、考えが違って対立してしまったことがあるという回答が多いことが分かる。また、解決方法として「相手の考えをよく理解した」「しっかり話し合った」「相手の立場で考えた」などの回答が多かった。しかし、相互理解することができる一方で、自分の正当性を主張したり、相手の立場や気持ちを考慮せず、一方的に非難したりしてしまうときもある。謙虚に他者から学ぶ寛容な心をもつことの意義に気づかせるとともに相手の立場や考えを十分に理解したうえで自己決定ができるようにしたい。

(3) 教材について

本教材は、前半は、昔話の「桃太郎」、後半は鬼の子の立場から桃太郎を捉えた阪田寛夫の詩「鬼の子守唄」で構成されており、考え方や立場の異なる者どうしが理解し合うことについて考えることができる教材である。後半の鬼の子の感情理解にとどめてしまうと相互理解につながらない。桃太郎と鬼の子の両者の立場を十分に理解させ、歩み寄る気持ちをもたせたいうえで、考えさせる。この教材の特性を生かし、自分と異なる考えをもつ人の存在を知り、理解に努め、他者に対して寛容な気持ちで接しようとする心情を育てたい。

(4) 指導観

導入では、アンケートの結果から対立した経験を想起させたり、桃太郎について引き出したりすることで相互理解についての問題意識をもてるようにする。展開では、桃太郎の立場からと鬼の子の立場から鬼退治について考えることで、考え方や立場が異なる者どうしが理解し合うためには何が必要なのかの考えを深めたり、広げたりすることができるようにする。終末では、両者の立場を考え、相互理解に必要なことを分かるようにする。また、本校課題研との関連では、スカイメニューのポジショニングツール、電子黒板の活用による生徒の問題意識を高め、主体的に考えるための指導方法の工夫を通して、道徳的価値への理解を高め、ねらいに迫りたい。

4 本時の指導

(1) 準備・資料

・教科書ノート・場面絵・ホワイトボード・電子黒板

(2) 展開

ICT活用の工夫に関することは太字ゴシック体

主な活動と発問 (○補助発問 ◎中心発問)	予想される生徒の反応	指導の手立てと評価 ※評価 ◎個に応じた支援
<p>1 課題を提示し、ねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">互いが理解し合うために何が必要か考える。</div> <p>○「桃太郎」のイメージとは。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・桃から生まれた。 ・犬、きじ、猿が仲間。 ・きびだんご。 ・鬼退治。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から人と対立した経験を想起させる。 ・昔話の「桃太郎」について知っていることを引き出す。
<p>2 教材「桃太郎」の鬼退治を読んで相方の気持ちを考える。</p> <p>○それぞれの立場から鬼退治について考える。</p> <p>○「めでたし、めでたし」と言えるだろうか。</p> <p>◎一方的な「めでたしめでたし」にならないために何が必要だったろう。</p>	<p>〈桃太郎の立場で〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪い鬼をたおすため。 ・村を守るため。 ・大切な人を守るため。 <p>〈鬼の立場で〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひどい、こわい。 ・やり返す。 ・人間嫌い。 <p>〈言える〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そもそも鬼が悪いから。 ・平和になったから。 ・村の人も安心して暮らせるから。 <p>〈言えない〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鬼の子にとっては、泣き出すほどの恐怖だから。 ・鬼の子から見たら。鬼退治は悲劇だから。 ・桃太郎のせいで鬼たちはつらい目に合っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・互いに立場に違いがあることを理解する。 ・互いの違いは話し合いで埋められる部分もある。 ・自分だけが正しいと思わず、相手にもそう思う理由があるのではないかと考える。 ・お互いの考えを尊重するのは難しいことだが、立場が違ったとしても、わかり合うための努力が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面絵を提示することで、状況を視覚的に捉えやすくする。 ・まず、昔話「桃太郎」を読む。発問を投げかけ、桃太郎の立場から鬼退治を考えさせる。その後「鬼の子守唄」を読み、鬼の立場から鬼退治を考えさせ、異なる見方ができることを実感させる。 <p>・スカイメニューのポジショニングを使い、電子黒板に表示することにより、ほかの意見を視覚的に捉えやすくする。</p> <p>◎考えが思いつかない生徒に対して助言することで、考えに自信をもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる立場や考えの相互理解のために必要なことについて、桃太郎や鬼の子の立場から考えさせる。 ・相互理解の難しさにふれる発言は積極的に取り上げ、学級全体で共有して、考えを深める。
<p>3 学習を振り返り、感じたことや考えたことを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立場によっていろいろな考えがあることが分かった。 ・相手の立場になって考えようと思った。 ・相手を尊重しようと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだことから、自分の考えを深められるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※互いが理解し合うために必要ことを考えることができたか。</p> <p style="text-align: right;">(道徳ノート)</p> </div>